

第 64 回 三ツ村 美沙子さん (愛知学院大学)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第 64 回目は、三ツ村 美沙子さんにご執筆いただきました。

社会、組織、個人が変化する今、できることを考える

新型コロナウイルスが世界中で猛威を振っています。他者と直接会うことが制限されるなか、実験や調査などの自粛を余儀なくされている研究者の方もいらっしゃるのではないでしょうか（何を隠そう、私もその一人です）。

私の専門は産業・組織心理学で、特に個人と組織の関係が及ぼす影響に関心を持っています。人々の働き方や他者との接し方が急激に変化している今、おそらく個人と組織との関係にも何らかの変化が生じていることでしょう。事態が終息したあとも、その影響は残り続けるかもしれません。

このパンデミックが社会、そして人々の心にもたらしている変化は、心理学の多くの研究領域に関わる重要な問題だと思います。自分に何ができるのか。この課題に対し、社会の一構成員としてだけでなく、一研究者としても向き合っていきたいと考えています。

三ツ村 美沙子 (Misako MITSUMURA)

【所属】 愛知学院大学

【連絡先】 [misako3@dpc.agu.ac.jp](mailto:misako3@dpc.agu.ac.jp)

【その他】 関心のある研究テーマは、個人-組織適合、制御焦点、制御適合、動機づけ、組織コミットメント、組織風土、非正規労働などです。お気軽にお声かけください。